医学研究センター

知財戦略研究推進部門

岡﨑　康司
（部門長）

知財戦略研究推進部門は,「知的財産管理運用部門」と「産学連携部門」を統合し平成 19 年 12 月に発足しました．当部門は平成 18 年度から特許庁の支援事業（「大学知的財産アドバイザー派遣事業」）を受けてスタートしました．3 年間の支援期間によって,当初想定していた以上に良い方向で着地することができ，平成 21 年度より自立した組織としてスタートを切りました．

埼玉県の補助事業で平成 22 年度から 24 年度まで産学官コーディネーターおよび補助員を採用しました．更に 25 度年からは産学官連携アドバイザーを採用し，産学官連携の新たな活動を開始することができました．

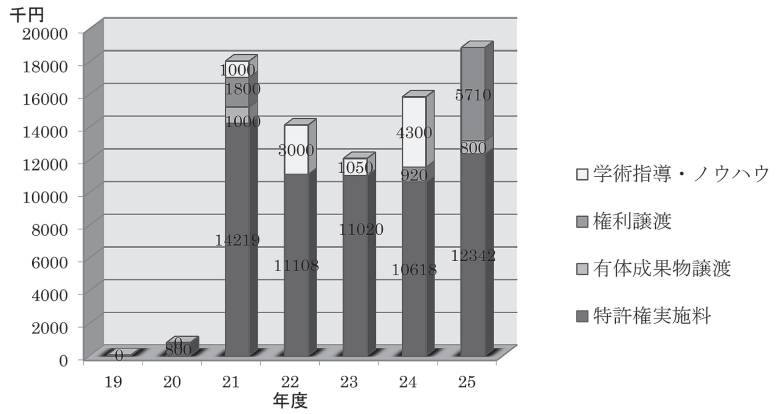
平成 22 年度から昨年度まで埼玉県が主催する「次世代産業カレッジ」事業に参画し，本学の先生によるセミナーを通じて企業や他大学とのネットワークを形成しながら，経営マインドを持つ中小企業の技術者を育成することと，本学のシーズ・ニーズを紹介して企業との連携を強化してきました．「次世代産業カレッジ」は，今年度も引き続き実施いたします．

現在（平成 26 年 5 月 1 日）までに 20 件の特許が成立し，保険適用となった臨床検査向け特許（「特許第 4216266 号」）技術が現場において活用されるに至り，産学官連携による人類の健康や福祉への貢献が目にみえる形となって参りました．そのランニングロイヤリティは，次の発明の創出に向けて研究者及び法人に還元され，まさに知的創造サイクルが回り始めたものと実感しております．

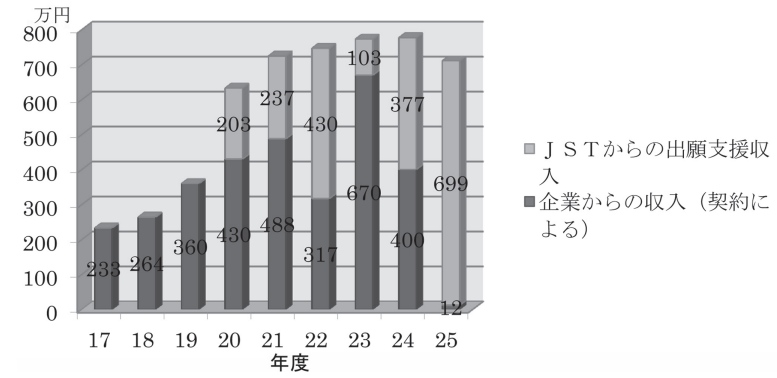
平成 25 年度の知的財産に係る収入（実施年度ベース）は，有体成果物の譲渡で 80 万円，特許権実施料収入で 1,234 万円，総額は 1,314 万円となりました．また，平成 25 年度は，知的財産権を 2 件の譲渡した対価として,571 万円の収入が得られました（前年比 627%，前年度 4 件 91 万円）．なお，特許の出願費用については,企業に支援して頂けるよう交渉し，また，独立行政法人科学技術振興機構（以下，JST と略す）へ支援申請して出願費用の 699 万円分の支援をいただくことが決まるなど,出願費用の負担を軽減する努力をしています．

当部門の活動の成果として,文部科学省が平成 25 年 12 月 13 日に公表した平成 24 年度の大学等における産学連携等実施状況調査の結果において,『特許権実施料収入』で医学部を持つ全国私立 29 大学の中で第 4 位，全国全ての大学の中では第 25 位にランキングされました．
（http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/sangaku/__icsFiles/afieldfile/2013/12/19/1342314_01_1.pdf)

知的財産に係る収入(実施年度ベース)



企業及び独立行政法人科学技術振興機構からの出願支援



※企業からの収入：共同出願契約等において，本学が負担すべき費用等を企業に負担していただいた場合の費用を収入として換算した．

知財戦略研究推進部門の主たる役割は，本学の英知と時代のニーズとの橋渡しを行うことによって社会に貢献していくためのサポートを行なうことであります．以下に，平成25年度における様々な成果や活動状況の一端についてご紹介させて頂きます．

平成24年度特許権実施料収入
医学部を持つ全国私立２９大学ランキング

No	大学名	千円
1	日本大学	220,204
2	北里大学	48,582
3	慶應義塾大学	20,061
4	埼玉医科大学	11,533

■特許査定

研究者との面談や弁理士との協議を積極的に行い，6件の特許が成立した．

① 発明の名称：「炎症性腸疾患の診断方法」
出願日：平成19年2月15日
登録日：平成25年5月10日
発明者：屋嘉比康治，加藤真吾

② 発明の名称：「偏向特性測定装置および偏向特性測定方法」
出願日：平成21年3月27日
登録日：平成25年7月5日
発明者：吉澤徹，若山俊隆

③ 発明の名称：「子宮癌及び乳癌の予防乃至治療に好適な二本鎖核酸分子，癌細胞増殖抑制剤，並びに医薬」
出願日：平成20年6月20日
登録日：平成25年8月9日
発明者：井上聡，池田和博

④ 発明の名称：「画像符号化装置，画像符号化方法，画像符号化プログラムおよび記録媒体」
出願日：平成25年4月17日
登録日：平成25年10月25日
発明者：小林直樹，篠田一馬，加藤綾子，駒形英樹

⑤ 発明の名称：「急性呼吸器感染症起炎病原体の鑑別方法」
出願日：平成20年3月3日
登録日：平成25年11月20日
発明者：萩原弘一，平間崇

⑥ 発明の名称：「ドーパミン受容体を標的とする薬剤，およびそのスクリーニング方法」
出願日：平成18年8月3日
登録日：平成25年12月27日
発明者：松下祥，中野和久

■海外出願支援

今後は，知財戦略研究推進部門として，本学で生まれる発明を日本のみならず外国においても積極的に特許として権利化していきたいと考えています．

しかし，外国で権利化するためには，多額の資金が必要になるため，科学技術振興機構（JST）の「海外特許取得のための出願費用支援制度」に積極的に申請し，外国での権利化を図っていく努力を続けています．

昨年に引き続き本年もJST支援制度に14件申請し，10件採択（審議中１件，不採択３件）となり海外出願に関わる費用を支援して頂きました．

平成25年度JSTからの出願支援額は，699万円となっております（前年比　185％，377万円）．

■ラボノート利用の啓発

当部門では，「ラボノートの書き方」（羊土社，初版2007年，改訂版2011年）を執筆し，データ捏造防止や特許法に耐えうるラボノートの書き方を啓発してきました．本年，論文のデータを不正に使用した事案がニュースとなり，ラボノートの重要性が世間に広まることとなりました．その書き方を記した本書は，Amazonのベストセラーランキング（2014年4月14日17時51分時点）の「基礎医学」の本で1位となりました．

＜平成 25 年度産学官連携活動実績＞

■埼玉県事業「次世代産業カレッジ」のセミナー開催

埼玉県が取り組んでいる「次世代産業カレッジ」事業に参加し,中小企業との産学官連携活動を行いました.

開催日：平成25年11月12日（火）10:00～17:30
開催場所：新都心ビジネス交流プラザ会議室
講師：

1. iPS細胞を医療福祉につなげる次世代産業／ゲノム医学研究センター　発生・分化・再生部門　加藤英政
2. 医療イノベーション～知的財産と共に～／医学研究センター 知財戦略研究推進部門　飯野顕
3. 光エリクトロニクス技術に基づく生体計測・制御／保健医療学部 医用生体工学科　戸井田昌宏
4. ライフサイエンスビジネスにおける「知財の利回り」～医療における特許戦略の現状／医学研究センター 知財戦略研究推進部門　安河内正文

■産学連携フェア・彩の国ビジネスアリーナ2014へ参加

本展示会は，様々な分野の企業・団体が参加する，国内最大級の展示商談会であり，併設された産学連携フェアに産学連携活動の一貫として下記の4演題をパネル展示で紹介しました.

開催日：平成26年1月29, 30日
開催場所：さいたまスーパーアリーナ
パネル展示テーマ／発表者：

1. 非侵襲血糖測定技術／保健医療学部 医用生体工学科　教授　戸井田昌宏
2. 新画像圧縮技術による医療への応用／保健医療学部　医用生体工学科　教授　小林直樹
3. 急性呼吸器感染症起炎菌の鑑別装置／医学部 呼吸器内科　助教　平間崇
4. 埼玉医科大学 医学研究センター 知財戦略研究推進部門の紹介／知財戦略研究推進部門

■産学交流セミナー

本学と埼玉県産学連携支援ネットワーク会議（埼玉県産業振興公社）が主催して「医工連携セミナー」を開催しました.

埼玉県産学連携支援ネットワーク会議は，県内中小企業の産学連携を推進するための機関として，大学・研究機関・金融機関等で構成されており，今回のセミナーでは，医療機器分野への関心を持つ県内企業の幹部を対象に，医療機器開発にかかわる本学の開発ニーズや事業化への事例を紹介しました.

セミナー終了後に医療保険学部と国際医療センターの見学会を企画し，参加者からは実際の医療機器を見る機会が得られて参考になったと大変好評でした.

開催日：平成25年3月6日（木）13:30 ～ 17:00
開催場所：埼玉医科大学・日高キャンパス・創立30周年記念講堂2階講義室
講演テーマ／講師：

1. 埼玉医科大学及び知財戦略研究推進部門の紹介／知財戦略研究推進部門　客員講師　豊田浩一
2. 研究開発促進・事業化実現のための補助金等各種支援施策の紹介／経済産業省 関東経済局 ヘルスケア産業室　係長　佐伯雅哉
3. 光エレクトロニクス技術に基づく非侵襲血糖計測技術の開発／保健医療学部 医用生体工学科 教授　戸井田昌宏
4. 埼玉県医療系ものづくり産業参入支援における公社の役割／公益財団法人 埼玉県産業振興公社 新産業推進部　塚田隆史

これら一連の産学連携活動を通じて，戸井田教授の非侵襲血糖計測技術が，平成26年度の埼玉県の医療機器開発プロジェクトに取り上げられることが決定し，セミナー参加企業と本学とのマッチング交渉も進んでおります.

本学の皆様には知財戦略研究推進部門の活動内容をご理解頂き，実際の発明案件等や発明に関する素朴な質問がありましたら，気軽に声をかけて頂きたいと考えています. 知財戦略研究推進部門は，日高キャンパスのゲノム医学研究センターの6Fにありますが，ご相談があればこちらから皆様のもとへ伺わせて頂きます. 本年も知財戦略研究推進部門を何卒宜しくお願い致します.

© 2014 The Medical Society of Saitama Medical University